



私たちのキーワード

防犯DXを促進させ
犯罪抑止効果を高める

株式会社Singular Perturbations

犯罪予測アルゴリズムで 警備するルートを示し防犯活動をサポート

テーマ

犯罪予測を用いた 自治体向け地域防犯業務効率化事業

事業内容

「世界の悲しい経験を減らす」というビジョンのもと、「コンピューターサイエンスがもたらす知能で安全に関わる全ての人の能力を最大化する」をミッションとして、2017年に設立。犯罪データ分析や犯罪予測の独自アルゴリズムをもとに、犯罪予測システムならびにソリューション開発に取り組んでいます。



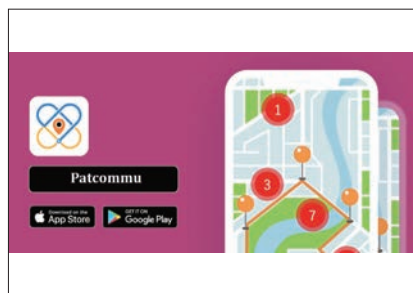
代表取締役：梶田 真実さん

犯罪被害がきっかけで生まれた犯罪予測システム

株式会社Singular Perturbationsは代表である梶田真実さんがイタリアでスリ被害に遭遇したことをきっかけに設立した会社です。この経験を元に、いっどこで未来の犯罪が起きるかを予測する犯罪予測システム「CRIME NABI」を開発。2018年には、NICT委託研究を介して国内自治体・警察向けの犯罪予測アプリの開発を開始しました。そして2023年、自治体向け防犯パトロール支援アプリ「Patcommu（パトコミュ）」としてリリース。警備員・市民のパトロール経路をモバイルアプリで作成・記録し、webアプリに集約。自治体が一括リアルタイムでパトロール情報を管理できるようになりました。このアプリの改善のために本事業を活用し、利用メンバー内でパトロール経路、事案の写真・メモを共有できる機能などを追加。徒歩や自動車によるパトロール業務がより効果的・効率的に行えるようになりました。

アプリの機能改善によりサービスの幅が広がる

「機能改善のアイデアをサービスに落とし込んでみると、使い勝手がイメージと異なり何度もやり直しました。苦勞の連続でしたが、初めてカタチにできたときは非常に嬉しく、感動しました。アプリのブラッシュアップのためにアンケート調査をしたところ、想定していなかった観点から意見をいただき参考になることも。また、使ってみて良かったというお声もいただき、さらなるモチベーション向上につながりました」と梶田さんは振り返ります。今後は、このアプリをベースに、さらに機能改善を行い、国内の自治体や警察への展開を促進。また海外展開も視野に入れており、すでにブラジルやホンジュラスなどの警察が検証を行っています。防犯業界だけでなく、観光やMaaS（さまざまな交通サービスを一つのサービスとして統合し、人々の移動の利便性を上げるもの）の領域とも親和性が高く、新たなサービスも期待できます。



防犯パトロール支援のAIパトロールアプリ「Patcommu」。ルート作成、パトロール、管理の3つの機能を活用できます。



アプリはパトロールする距離を指定すると、最適なパトロール経路を自動で作成。GPSによる位置情報をもとに実際にパトロールした経路が記録されます。



海外展開も視野に入れており、ホンジュラス国家警察官が犯罪予測システムの検証を行っている状況です。

会社概要

■ 所在地：東京都千代田区九段南一丁目5番6号 リそな九段ビル5F
■ URL：https://www.singular-perturbations.com ■ 代表取締役：梶田 真実 ■ 設立：2017年8月